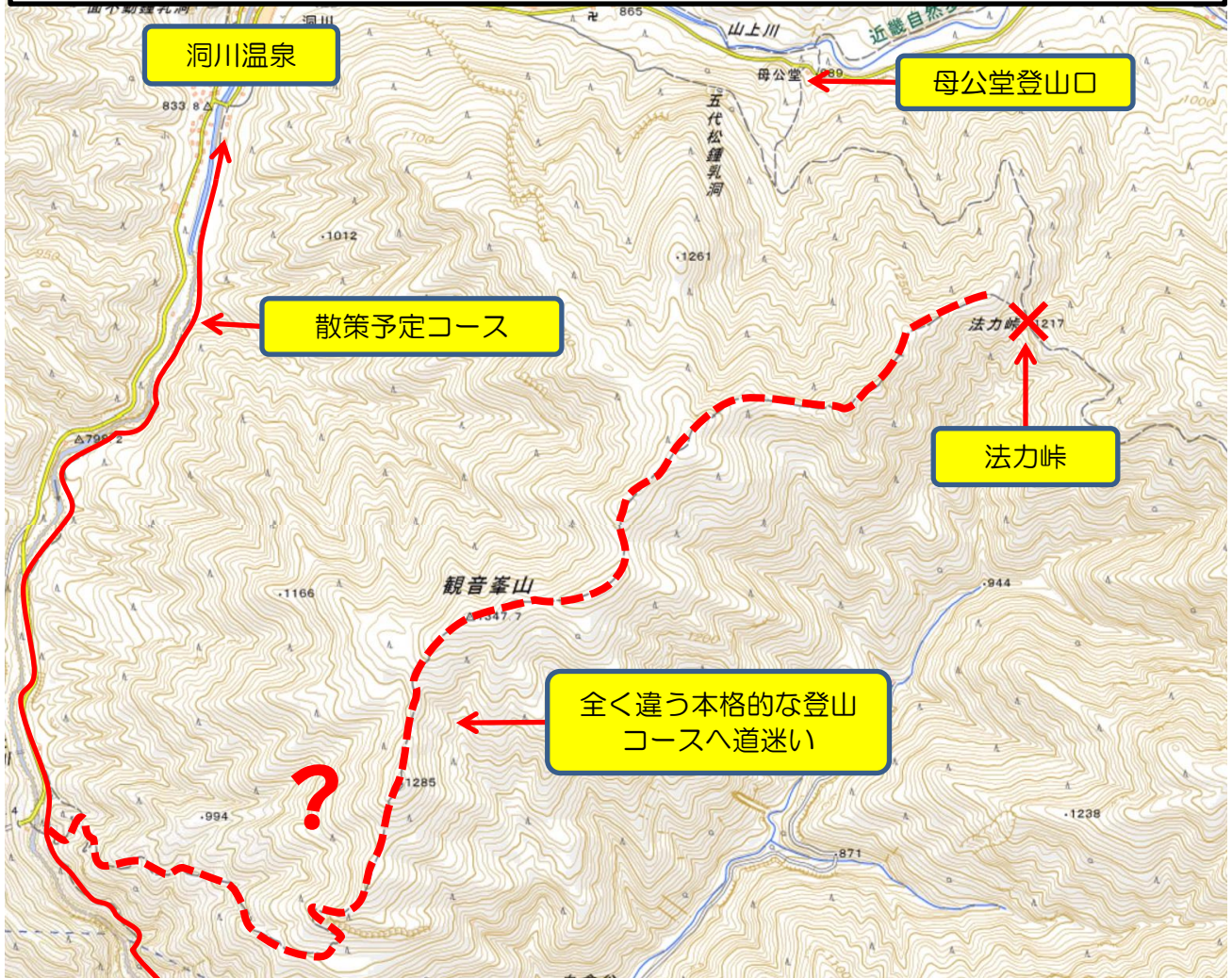


観音峯山遭難(2020年12月)

家族3人で御手洗溪谷を洞川温泉まで散策する予定が、道を間違え本格登山に。観音峯山を越え法力峠まで移動するも一人がケガで動けなくなり、母公堂登山口で待つ家族に電話。偶然下山してきた登山者に話をするとその登山者が法力峠まで救助のため再度登山を開始。無事に家族と会えて下山することができた。



解説

散策コースは川沿い、間違えた道は本格的な登山コース。通常ではありえない道迷いだが、間違えた家族は登山道を散策コースと信じ、進むことになる。恐らく途中で何度も「あれっ、おかしい?」と思ったに違いないのだが、道迷いの不思議は行動を更に進めてしまう。

17時20分ごろ、下で待っていたお母さんが「家族が下りてこない」「上で誰かと会わなかったか」と下山してきた登山者に質問。登山者が母に詳しく話を聞くと家族は「法力峠(ほうりきとうげ)」にいたことが分かった。(途中で携帯が不通となった)

家族は、観光目的でこの辺りに来ているので冬山装備を持っておらず、軽装で法力峠にいる。登山者は、法力峠に救助に向かうことを決めた。

登山道の途中で10代の息子が単独で下山し、会うことができ、法力峠に父と娘がいることが分かった。息子に予備のライトを渡し息子は下山。登山者は法力峠に向かい二人と会うことができた。娘は足を怪我しており、登山者が背負って無事下山。

12月の季節である。装備を持っていない者には容赦なく冷たい夜が襲ってきたに違いないので、迅速な対応をした登山者は素晴らしい行動であった。